

## 「ふくせん」がモニタリングシートを開発

全国福祉用具専門相談員協会（東京都港区・山下一平会長）（通称・ふくせん）は、3月23日に、福祉用具の利用状況の確認・評価の記録するツールとしてのモニタリングシートを発表した。

このモニタリングシート（テスト版）は、昨年、福祉用具サービスを事前に計画するために必要不可欠な「福祉用具個別援助計画書標準様式」を開発した「ふくせん」が、サービス提供の実施後に、これを確認して変化を見て、前回の計画の検証をするのに役立てようと開発したものである。

このモニタリングシートは「個別援助計画書」と対になるものであり、PDCAスタイルと呼ばれる質の向上を図るためには必要不可欠のものである。PDCAとはP＝プラン、D＝実施、C＝確認評価、A＝見直しの意味であり、この一連の工程によって、利用後の変化の把握だけでなく、要介護の高齢者の福祉用具の利用のニーズの変化やケアマネジャーとの情報の共有化なども図れる。

現在、個別援助計画の作成は義務付けられてはいないが、サービスの質の向上には作成が必要とい

う考えが広まり、現在、多くの関係者によって全国各地で計画書を作成する取り組みが増えている。「ふくせん」では、更にこのような取り組みを支援し、向上させるために、モニタリングシートを開発したものである。

全国福祉用具専門相談員協会  
（ふくせん）

東京都港区高輪3-19-20

高輪OSビル9階

TEL：03-3443-0011

<http://www.zfssk.com/>